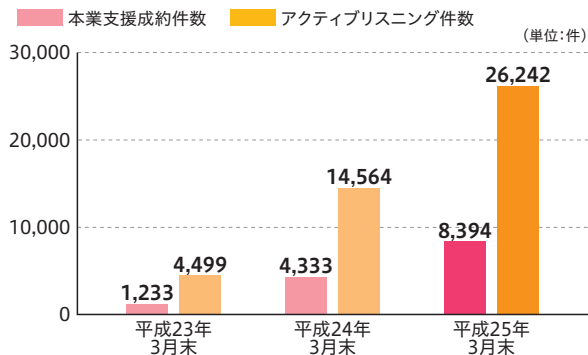


## きらやか銀行の本業支援

### ● 本業支援成約件数・アクティブリスニング件数累計



当行では、「本業支援」の本質は、経営者の方から、アクティブリスニング(企業の問題点・課題・悩みをお聴きし、共有する活動)を通してお聴きした事業ニーズを一緒に考え解決することで、お客さまに喜んでいただくことにあると考えております。このアクティブリスニングによる本業支援は、じもとグループとして当行及び仙台銀行の両行が長期的戦略として、全行員が組織的且つ継続的に取り組んでおります。

### 取り組み事例

#### 被災地復興を手掛けるお取引先への本業支援

当行では、地域の皆さまと共に“活きる”を経営方針に掲げ、本業支援を組織的に展開しております。今回は、「被災地復興を手掛けるお取引先への本業支援」の事例をご紹介します。

**お取引先** A社(大手鋼材メーカー関連不動産業者)  
強み: 独自工法による短納期・ローコストが可能 販路: 岩手県

**当行の発想** 宮城県(被災地)の住環境整備に繋がらないか?  
 (A社)の独自工法を活かした復興支援の促進に繋がるのではないかと  
 (A社)の独自工法を活かした復興支援の促進に繋がるのではないかと

そこで (A社)に対し、集団移転促進事業策定に携わる(B社)へのプレゼンの場を設定

#### マッチング成約

マッチングが成約したことにより、(A社)グループ企業の東北営業拠点となっている、(C社)(当行お取引先)の売上も増加。

#### A社 -WIN!

岩手県のみならず宮城県の販路拡大に繋がった

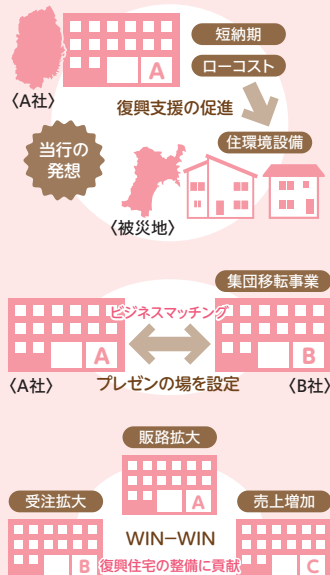
#### B社 -WIN!

被災地において、短納期・ローコストが絶対条件の中A社の独自工法のおかげで地方公共団体からの受注拡大

#### C社 -WIN!

A社の販路拡大により売上増加(地元の雇用も確保)

3社がWIN-WINの関係を構築して、復興住宅の整備に大きく貢献できた。



トピックス

**地域密着型金融に対する取り組みで顕彰**

当行は、平成25年3月に、東北財務局より「平成24年度地域密着型金融に関する取り組み」で特に先進的でモデルとなる取り組みを行っている金融機関として顕彰されました。顕彰を受けたのは「アクティブリスニングによる本業支援」と「子会社を活用した事業再生支援への取り組み」です。当行はこれからも「地域の皆さまと共に“生きる”」を経営方針とし、地域経済の活性化に一層貢献するべく、お客さまから“もっともっと喜ばれる銀行”を目指してまいります。



東北財務局より顕彰

**本業支援をさらに強化。4月に本部組織を改編**

当行は、平成25年4月に、当行の営業施策の柱である「アクティブリスニングによる本業支援」を軸とした中小企業融資推進を強化するべく、営業推進部門を中心に、本部の組織改編を実施しました。また、仙台銀行との連携を強化し、仙山圏におけるお客さま同士の仲介機能を拡充するため、「仙台法人営業部」を新設しました。

今後も当行は、じもとグループの戦略であるじもと経済活性化に向けて取り組んでまいります。



新設した仙台法人営業部

**地域の企業の皆さまと共に“生きる”本業支援 ホームページ特設サイト**

当行では、地域の皆さまと共に“生きる”を経営方針とし、お客さまの経営課題を共有しながら共に解決する「本業支援」に取り組んでいます。

平成25年5月からのテレビCMでは、お客さまの実際の声を紹介し、当行が目指す「お客さまの想い」を形にする本業支援の取り組みを表現しています。また、ホームページに特設サイト「生きる」を開設し、これまでの当行の本業支援に対する取り組みを掲載しております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

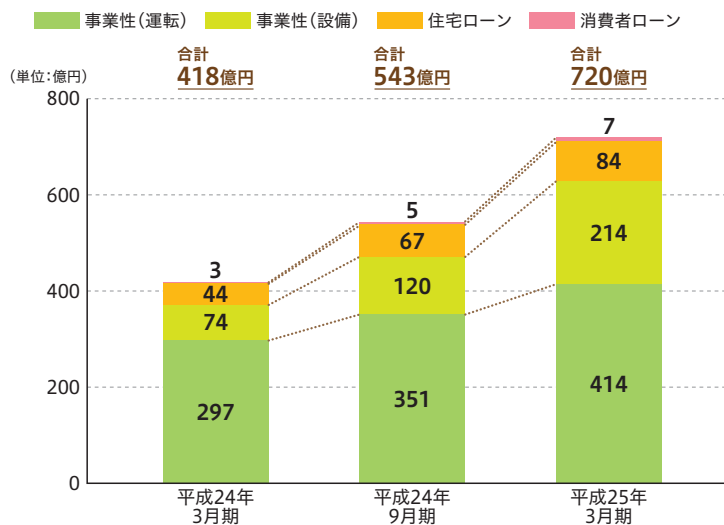


きらやか銀行ホームページ「生きる」特設サイト

<http://www.kirayaka.co.jp/ikiru/>

## 仙台銀行の本業支援

### ●被災者向け新規融資実行額累計



当行は、東日本大震災の発生直後から、被災されたお取引先の早期復興に向けて、様々な資金需要に積極的に取り組んでいます。平成25年3月末までの被災者向け新規融資実行額は2,948件720億円となりました。

また、中小企業診断士や不動産鑑定士、農業経営アドバイザー等が、多様な復興ニーズを踏まえ、きらやか銀行とも連携し、協同融資やDDS（既存債務の劣後ローン転換）等の資金支援、二重ローンご相談、アグリビジネス支援等に取り組んでいます。

### 取り組み事例

#### 石巻・牡蠣養殖業者の「6次産業化」復興を支援

宮城県石巻市狐崎浜地区は、県内でも良質な牡蠣養殖産地でしたが、震災の津波により養殖施設や漁船が壊滅的な被害を受けました。

こうした中、被災した牡蠣養殖個人事業者6名が立ち上がり、自らの生産物を自らが加工・販売する6次産業化を目指した共同出資法人「宮城県狐崎水産6次化販売」を設立しました。

当行は、営業店と地元企業応援部（水産業経営アドバイザー）が連携し、事業計画策定をサポート、牡蠣加工場の建設資金と運転資金を融資しました。

当法人では牡蠣の出荷・販売を再開しており、この取り組みは、漁業復興の新たなビジネスモデル、被災地雇用の受け皿として期待が高まっています。



#### 【企業概要】

企業名：株式会社宮城県狐崎水産6次化販売  
 事業内容：牡蠣等水産物の養殖・加工・販売  
 所在地：宮城県石巻市狐崎浜  
 設立年月日：平成24年7月5日

トピックス

**復興支援に向けて被災店舗をリニューアル**

● **大河原支店が新たにオープン**

大河原支店（宮城県大河原町）は、震災で地震による被害を受けたことから、平成25年6月に同町内に移転のうえ、新築オープンしました。新店舗には、ゆとりある駐車スペースや各種相談コーナーを設け、お客さまの利便性をさらに高めました。

同じく被災した塩釜支店（宮城県塩釜市）と苦竹支店（仙台市宮城野区）についても現在新築建替え工事を進めており、平成25年度中にオープンする予定です。



新築オープンした大河原支店

● **被災地・南三陸町への店舗再出店を決定**

当行は、本格化する沿岸部の復興をさらに支援するため、平成25年度内を目途に南三陸町志津川地区に新店舗を建設予定です。この新店舗には、震災後、町外で営業している志津川支店と歌津支店を移転・同居させ、南三陸町での窓口営業を再開する方針です。

また、国分町支店（仙台市青葉区）を平成25年9月に近隣の本店営業部内へ移転・統合する予定であり、これにより人材などの経営資源を復興支援に一層集中させる方針です。



塩釜支店完成予想図

**新オンラインシステムが稼動。金融サービスをさらに充実**

当行は、平成25年5月より、NTTデータが提供する地方銀行・第二地方銀行向けの共同センター「STELLA CUBE®」へ移行し、新オンラインシステムでの業務を開始しました。

このシステムは、バックアップセンターや優れた拡張性を有しており、当行は、一層充実した金融サービスを安定的に提供してまいります。

なお、きらやか銀行も、平成27年5月に同システムへ移行する予定であり、じもとグループ全体での業務効率化を実現してまいります。